

G20首脳へ「寛容と尊重を」 諸宗教フォーラム 清水寺で閉幕

今月下旬の20カ国・地域
首脳会議（G20大阪サミット）

を前に国内外の宗教指導者らが京都市で意見交換



宣言文の読み上げを聞く諸宗教フォーラムの出席者(12日午後5時10分、京都市東山区・清水寺) 撮影・松村和彦

した「G20諸宗教フォーラム2019」が12日閉会した。「G20の首脳は寛容と相互尊重の立場に立って、協調路線を取ることを望む」と、フォーラムで採択した宣言文を東山区の清水寺で発表した。

宣言文では多くの国で国益第一主義の傾向が見られるとし、「行き着く先は国家間の対立と衝突」と懸念を表明。政治、民族、宗教的理由で抑圧されている人々たちに向け「世界の分断を克服し、共に生きる社会の構築に取り組む」とした。

清水寺の西門下で閉会式があり、サイド佐藤・日本ムスリム協会理事がイスラム教の聖典コーランをアラビア語で朗読。続いてウスビ・サコ京都精華大学長らが日本語と英語で宣言文を読み上げ、出席者約70人が拍手で賛同を示した。宣言文は14日、官邸に届ける。

(森敏之)